

名張市における認知症地域支援体制構築等推進事業（平成 21 年度）

ビジョン

基本目標：ともに生きともに創る心ふれあう幸せのまちなばり

推進方針：「ともに支えあうこころゆたかなまちづくり」「利用者本位のケアの推進」

※介護保険事業計画の重点事項「認知症への理解の促進」

○早期発見・早期治療 ○認知症ケアの向上 ○認知症に理解ある地域づくり

実施内容

（1）認知症キャラバン・メイト養成講座の開催（7月実施）

まちの保健室職員、地域包括支援センター職員、保健センター職員を対象に養成する。本年度 37 名養成。現在 41 名が活動している。

（2）認知症サポーター養成講座の開催

・地域住民 2回 54人 ・金融機関 5回 109人 ・ボランティア 1回 28人
・老人クラブ、サロン 2回 41人 民生委員 1回 26人 計 11回 258人

※市職員向け、児童向け等企画中

※昨年度作成した「認知症ライブラリー」「紙芝居」「寸劇シナリオ」や「物忘れプログラム機器」を活用

（3）地域資源マップの作成

14 地区ごとに「地域資源」の情報を収集・整理した「地域資源マップ」を作成し、ホームページによる公開などの方法により、地域住民等に対して広く提供する。作成にあたっては、地区担当保健師が地域診断した成果をマップ化する。

（4）認知症相談窓口の開設（認知症サポート医・矢倉先生）

認知症サポート医による相談窓口を開設し、専門的視点からの助言等の支援等を行う。

（5）センター方式を活用した事例検討会の実施（3回開催）

昨年実施した認知症介護研究・研修東京センター・永田久美子氏の研修内容を踏まえ、事業所向け研修会を開催する。

(6) コーディネーターの配置

まちの保健室の職員のうち2名をコーディネーターとして位置づけ、見守り支援マップの作成をおこなう。あわせて認知症対応力向上のための研修を実施する。

(7) 認知症高齢者支援のためのネットワークの構築

コンビニ、ガソリンスタンド、大型スーパー、銀行、郵便局、宅配業者、新聞販売店、タクシー・バス会社などへの働きかけ（認知症高齢者への理解の促進、対応力向上と徘徊ネットワークの構築）